

10章-5 P29 中央より少し下 (do の脱字)

cf. I tried everything that had *anything* to with divination. (占いと名のつくものは何でも)

→ I tried everything that had *anything* to do with divination.

12章-5 P52 最初の行 (言葉が不適切)

また、that は前出の内容を受けることもあるので、言語内前方照応なら Don't do that. とすることもよくあります。

→ また、that は前出の内容を受けることもあるので、言語内前方照応で Don't do that. とすることもよくあります。

12章-8 P55 下から4行目 (脱字)

ただし、動物であっても he, she を用いるはよくあります。

→ ただし、動物であっても he, she を用いることはよくあります。

12章-21 P68 下から8行目 (誤字)

Virtue and vive are before you; → Virtue and vice are....

12章-22 P69 7行目と9行目 (誤字) 名詞 → 名刺

14章-44 P119 上から5行目 (括弧の閉じ忘れ)

(主格関係の例 : a person the behavior of whom [whose behavior] depends on whether he is being watched 「陰ひなたのある人」)

→ (主格関係の例 : a person the behavior of whom [whose behavior] depends on whether he is being watched 「陰ひなたのある人」))

17章-8 P161 上の※印に「文を従える接続詞」とする根拠 (下の赤線部分) を追記。

※ as well as の品詞についてですが、B が目的語と対等のときには前置詞と考えてよいでしょう。Must I call you a liar as well as a thief?

「泥棒をした上に嘘までつく気か」では、前置詞の besides に置き換えることができます。他方、You as well as I are wrong. では、文を従える接続詞です。 → 右頁の最初と二つ目の※印

20章-4 P191 中央付近 (誤字)

(文語体の対称としての口語体を研究している。) → 対照としての

23章-8 P212 最下行 (言葉が不適切)

～のかたちで用いられますが、この例のように前の文に対して受けることもあります。

→ ～のかたちで用いられますが、この例のように前の文に対しての追加説明をすることもあります。

24章-3 P217 下から12行目 (誤字)

And for the first time, begging next April, all high school boys will be required to take home economics.

→ And for the first time, beginning next April, all high school boys will be required to take home economics.

26章-3 P236 13行目 (誤記) hypercorrect ととは、 → hypercorrect とは、

26章-18 P251 三つ目の※印の記述 (誤字) × the fiend of mine [me] は不可。 → friend

26章-48 P281 上から2行目 (誤字)

(NOT Except for your help, I would have failed.) → (NOT Except for your help, I would have failed.)

脱字等の間違いはいずれも全くの不注意によるものです。目を皿のようにして、指で一語一語追いながら、何度も何度もチェックはしたのですが……。恐らく、チェックはしていながらも、訂正作業の方が不徹底だったものと思います。いずれにせよ初歩的なミスで誠に申し訳ありません。深くお詫び申し上げますとともに、誠にお手数ではございますが訂正をお願いいたします。

(一部のミスは読者の方からご指摘をいただきました。)